

企画名： 「これからの価値観と新しいライフスタイルとは？」
実施日時： 2012年1月15日(日) 10:00～11:30
実施場所： パシフィコ横浜会議センター 4F 416+417
登壇者： 岩淵良太（会津みしま自然エネルギー研究会 会長）
三澤真也（同上 副会長）
五十嵐乃里枝（同上 事務局）
齋藤真弓（同上）
仙石翔太郎（同上）
参加人数： 40名
文責： 仙石翔太郎（会津みしま自然エネルギー研究会）

1 登壇者による発表

- 1-1 決意表明 (岩淵)
- 1-2 研究会の取り組み、小水力電力実現への進捗状況報告(仙石)
- 1-3 これからのライフスタイルについて (三澤)

2 質疑応答 (五十嵐)

- 2-1 参加者からの反応
- 2-2 反省点

1

- 原発事故によって変わってしまった福島環境。とあるおばあちゃんが放射能汚染によって、作った野菜を孫に食べてもらえなくなったエピソードを紹介し、原発事故が引き起こした福島県民の精神的な苦痛を訴えた。このようなことを二度と繰り返してはいけないという決意を表明。原子力に変わる新しいエネルギーとして『再生エネルギー』に、一人一人が取り組んでいく姿勢が必要だ。
- 前半は、三島町の写真を数枚写しながら、町内を流れる只見川や冬場の豪雪について地元住民のエピソードを絡めて説明した。後半は、研究会が軸として取り組んでいる「小水力発電」の町への導入の話。全国小水力発電協議会 中島大 氏、国立環境研究所 藤野純一 氏に行って頂いた三島町内における小水力発電適地調査の結果報告。只見川の支流を水量、落差、工事における簡便さ、などの視点から調査を行った。その結果、3地点で100kW以上の発電が可能であることがわかった。概算工事費は1億1200万円。研究会の今後の課題はとして、資金調達と地元住民の合

意形成が浮かび上がってきた。

- 脱原発を掲げる前に、もう一度自分たちのライフスタイルを見直すべきではないか。食べ物やエネルギーはお金で買うもので、お金を稼ぐことが生活を豊かにするという価値観の中で生きてきた。特に私のような若い世代は生活力がなさすぎる。将来、石油が枯渇した時に生活力のないままの私たちは、大きな権力に取り込まれて生かされていくしかないだろう。それでは、相変わらずの中央集権の植民地主義は変わっていかない。「原子力」を「自然エネルギー」に置き換えるだけでは、「地方の土の上で、もう一度生きる」ことを選択した私たちは幸せになれない。

2

2-1 参加者からの反応

横浜市在住の50代男性

電気を使う総量を減らしていくのは難しいのではないかと。わたしたちはもう電気の便利さを知ってしまったのだから。例えば自然エネルギーで発電して農作業に使う刈払い機や原動機付き自転車に使う蓄電池に一度電気を貯め、それを必要な時に使ってはどうか。

宮城県七ヶ宿町在住の30代女性

私が暮らしている町と三島町には共通点があった。私は自然農を目指して取り組んでいる。ぜひ、今後は連携出来ればいいですね。

2-2 反省点

今回の目的は、本研究会の紹介を通じて新しい価値観やライフスタイルについて参加者と話し合うということであった。様々な出会いもあり、横のつながりが広がり十分に目的を果たせたと思う。しかし、わたしたちの発表の内容が、参加者の希望に沿っていたのか、発表するレベルに達していたのかという点で反省が残った。

